

「竹島の日」を考え直す会 機関紙

本部;代表 姜徳洙(大阪府八尾市志紀町3-30 八尾市韓国人会館内 Tel.072-949-1521, FAX072-949-4337)。編集;理事長 久保井規夫(大阪府高槻市川添1-3-20 Tel. FAX;072-695-3210 Email;aphckuboi@ybb.ne.jp)

盛会! 第五回「竹島の日」を考え直す集い!

「図説 竹島=独島問題の解決」出版記念パーティ



韓国伝統舞踊「剣の舞」(呂英華韓国伝統芸術院)で祝賀オープニングした

第五回「竹島の日」を考え直す集い part1 は、久保井規夫「図説 竹島=独島問題の解決」つげ書房新社の出版記念集会として実施した。6/21(土)、大阪市道頓堀ホテル宴会場にて、出版記念パーティが、宴会場満席の百余名で開催された。書籍費2,700円(当日は割引)に、飲食費5,000円だが、続々と詰めかける参加者を前に、受付は嬉しい対応に追われた。最初に、呂英華韓国伝統芸術院から伝統舞踊「剣の舞」が演じられ、「考え直す会」のさらなる前進が祝賀された。著作者久保井規夫からは、本書と関わる新史料によって明らかにされた歴史の真実が紹介

された。副代表の黒田伊彦からは、本書の活用とともに、大阪・東京・韓国での、史料展示会と解説を「竹島の日」を考え直す集いを兼ねて実施する企画が提起された。当日の進行をされた朴清(本会の会計)からは、「竹島の日」を考え直す会への入会案内がなされた。参加は、京阪神だけでなく、遠くは韓国慶尚北道からも、名古屋、東京からも、日韓両国民からの参加者があり紹介された。その後は、会食をしつつ、参加者からメッセージの自由交歓を行った。全国に先駆けて取り寄せた本書百冊は即座に完売となり、著者も記念サインにせわしかった。売り切れ後の購入予約も列をなし、さらに追加で二百冊を取り寄せることとなった。本書のような、最新資料・情報を分かり易くまとめたものが待ち望まれていたのだろう。今後、日韓両国の人々へ本書の内容を広めていく機会を設定していきたい。



会場は満席の百余名が集い出版を祝賀した

8/30 第五回「竹島の日」を考え直す集い part II を実施

第五回「竹島の日」を考え直す集い part I は、久保井規夫「図説 竹島=独島問題の解決」出版記念集会として、6/21(土)大阪市道頓堀ホテルにて盛会裏に実施した。同書で紹介された国内外でも未公開の原史料の数々を知り、参加者から歴史認識を深める機会が要望された。そこで、十月を目途に、原史料を受託・所蔵するアジア民衆歴史センターの主催で、特別公開「原史料より明らかになる日本と韓国の歴史……竹島、関東大震災、軍『慰安婦』、小鹿島療養所」を企画した。その前段として、八尾市韓国

人会館にて、8/30 第五回「竹島の日」を考え直す集い part II を実施した。此处では、未公開の原史料を一部公開して解説した。また、9/1 震災日を前に、関東大震災と朝鮮人虐殺についても取り上げた。その講演と原史料の公開・解説の要旨を掲載する。

1. 関東大震災の実相 朝鮮人・中国人・被差別部落民の虐殺をめぐる 黒田伊彦(本会副代表。元大阪樟蔭女子大学講師)

紅蓮の炎と道を塞ぐ瓦礫の為、救援米も、仮小屋の木材も届かない。民衆の、この不満が政府批判に向かうのを防ぐため、官憲は、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「社会主義者と一緒になって、爆弾を投げ復讐している」等のデマを意識的に流し、自警団をつくり、軍警察と一緒に朝鮮人 6,000 人以上、大杉栄ら社会主義者を虐殺した。王希天初め五百人余の中国人。また、千葉県福田村にて被差別部落民九人の薬行商人が虐殺された。これらを「正当化」するため、「天皇暗殺を企てた」として朴烈・金子文子らの大逆事件をでっち上げた。関東大震災を「天罰」とする説もでた。デモクラシーから軍部ファシズムへ傾いて行った歴史から、「鶴橋大虐殺」を煽動するヘイトスピーチの人権侵害を弾劾した。

2. 初公開の原史料が明らかにする歴史の真実

竹島=独島問題と関東大震災での朝鮮人虐殺をめぐる史料から

久保井規夫(本会理事長。アジア民衆歴史センター主宰)

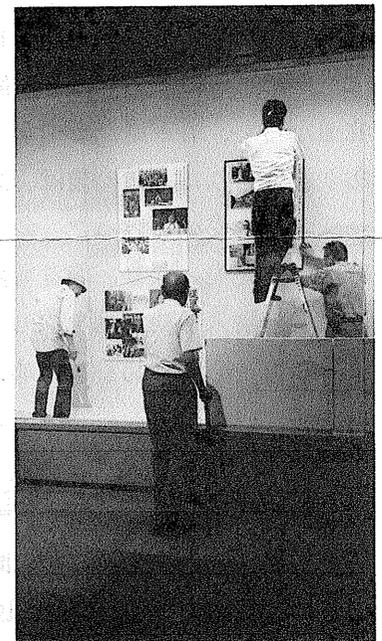
<竹島=独島問題>日本政府が隠す天保浜田藩竹島一件の「異国渡海全国禁止令」高札の実物。島根県編入以前から、日本海軍が鬱陵島・竹島=独島を対露戦略の要地として占拠を図り、望楼・海底電線設営を進めていた。海軍軍司令部による調査・設営の写真の数々や関係の地図。<関東大震災での朝鮮人虐殺>「秘大正十二年官房文書課記録係編纂 震火災ニ関スル告諭諸達示通牒」。政府官房局、外務・内務次官、戒厳令本部、警視総監等の諸達示が網羅されている。朝鮮人暴動のデマによる朝鮮人・社会主義者の虐殺を隠蔽するため、マスメディアや民間調査や自警団への統制を行った。警視庁には、朝鮮人特高警察が組織された。驚くべきは公文書で「惨殺朝鮮人死体を真っ先に焼却せよ」と指令し、証拠を隠滅した。「傷害を負うたり、朝鮮人虐殺を見聞した朝鮮人を要注意として視察・監視せよ」と命じた。当時、発刊停止されていた新聞・図版も原史料として提示した。

3. 質疑・討論 八月・九月と「朝日新聞」の「慰安婦問題検証と一部記事誤用・取消」「池上彰コラム掲載見合わせ」の不祥事と謝罪は、メディア間の批判スクープともなった。週刊誌も加え、連日のスクープであった。それと関わり、本集会でも、10月に実施する特別展示の日本軍「慰安婦」コーナーへの質疑と期待の声が強かった。

10/7~11 特別展示「原史料より明らかにする日本と韓国の歴史」を第六回「竹島の日」を考え直す集いとして成功させた

「図説 竹島=独島問題の解決」に掲載した新史料に留まらず、日韓に於いて正しい歴史認識を深めることが求められている課題について、原史料を直に提示して、確たる友好の歴史認識を自覚していただく機会を

企画した。標記の集会を、本会は第六回「竹島の日」を考え直す集いとして、位置づけることの写真パネルと、貴重な原とし、最終日 10/11(土)には、黒田伊彦(本会副代表)が講演を実施した。



会場設営をする有志の皆さん

かくて、会場協力を大阪人権博物館(リバティおおさか)に、史料協力をアジア民衆歴史センターに戴き、作成された五十枚余の多数史料の展示設営を本会有志が行った。情宣は、案内ビラを、本会集会参加者関係 240 余名と、アジア民衆歴史センター関係 140 余名に郵送し、関係有志が 400 枚配布した。10/7(火)~11(土)の五日間、毎日二十余名の参観者があり、11(土)の本会講演会へも多数の参加者があり、延 130 余名の参観者があった。地元大阪周辺だけでなく小樽、新潟、広島、淡路島、和歌山などからも駆けつけてくれた。



会場設営を終えて、博物館長を中心に記念撮影

また 11/10(金)から 11(土)にかけて、韓国から KBS テレビ放送局が、会場や関係者を取材し、年内に、ドキュメント仮題「独島=竹島問題の解決に、いま日本では」としてまとめて、来年 3/1(日)独立運動記念日に放映する予定である。



大韓帝国勅令の 10 月に、独島領有権を語る黒田伊彦副代表

さらに、取材した KBS ドキュメント製作責任者 InSooLee さんは、韓国では全く知らされていない日本軍「慰安婦」コーナーの展示史料や、「朝日

新聞」検証記事での日本における情況に驚いた。そこで、史料提供したアジア民衆歴史センターへ、次のドキュメントとして「日本軍『慰安婦』問題」を作成したいとして取材と協力要請を申し入れてきた。具体的には、私たちが、今回、大阪人権博物館で実施したパネル・史料展示の学習会を、来年春に、東京でも開催する企画を知り、その催しを中継したい。さらに、韓国に向いて関係団体との交流をして戴き、ドキュメント番組を作成したいとのことである。久保井からは、検討する旨を伝えておいた。

〈展示した国内外で初公開の原史料の概略〉

1. 関東大震災コーナー 内閣官房局「秘 震災に関する告諭諸達示通牒」。朝鮮人虐殺の隠蔽、自警団、マスメディア、視察団、水平社、社会主義者への統制・対応(内務省警保局、吉河光貞「関東大震災の治安回顧」、吉野作造「圧迫と虐殺」を補完する一級史料である)。犠牲者の写真。「大震災画集」。「大阪朝日新聞」、「大阪毎日新聞」、「神戸又新日報」「山形民報」等の報道。東京帝大「帝都大震災火災系統地図」。戒厳司令部「大正震災写真集」。神奈川県「大震災記念写真帳」。日朝協会「民族の棘」や朝鮮大学校「関東大震災に於ける朝鮮人虐殺の真相と実態」。与謝野晶子、震災を歌う。壺井繁治・宮武骸骨の見聞録、初公開の文献・写真多数。Etc
2. 「慰安婦」コーナー 挺身隊の写真に見る実態。「慰安婦部隊」「永遠の哀号」等の「慰安婦」の手記、戦記、戦時の雑誌・写真に載った軍「慰安婦」たち。麻生徹男私家版「戦線女人考」。台湾総督府と陸軍省との「慰安婦増員要請の軍文書」。千田夏光の「従軍慰安婦」の東映映画化。抑留オランダ女性への「慰安婦」強要のバタビア臨時軍法会議裁判。菊地政男「白い肌と黄色い隊長」の松竹映画化。etc
3. 小鹿島療養所コーナー 日本統治下の韓国小鹿島「ハンセン病」療養所での人権侵害の実態。

家族別離、断種・墮胎手術を強要した生存権の破壊や、患者の使役・弾圧・収監など、日本内地の隔離施策と対比する。虚妄の恐れ・穢れ。「小鹿島更生園年報」「文化朝鮮特集小鹿島更生園」「小鹿島更生園案内図」。朝鮮総督府検定教科書に載せられた小鹿島療養所。「朝鮮事情」「朝鮮年鑑」等の実態。現地調査報告。「小島の春」「愛生園日記」「回春病室」。入所者の手記。DVD「小島の春」「海峡を越えた問いかけ」の対比。etc

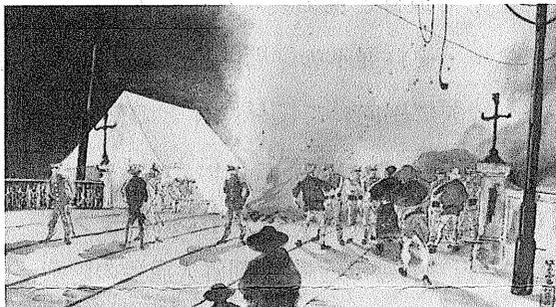
4.竹島コーナー 竹島を図示する韓国(朝鮮)・日本・欧米の古絵図・近代地図から初公開の原史料を多数展示。元禄鳥取藩竹島一件・天保浜田藩竹島一件。浜田藩・長州藩御用商人西村家文書。八右衛門幕府取調書。竹島渡海全国禁止の高札。最古の竹島の写真。

日露戦争時に日本海軍による監視所・海底電線設営工事。ウラジオストック露港と竹島と日露海戦。日清・日露戦争・韓国「併合」・戦後 GHQ 占領下・朝鮮戦争と、戦争による非常事態下で、両国が主体として、相互理解と対話による解決の道は開かれぬまま今日に至る。etc

特別公開 主催 アジア民衆歴史センター
原史料より明らかになる日本と韓国の歴史

10/7(火)~10/11(土) 会場協力 大阪人権博物館(リバティおおさか)

〈国内外で初公開される原史料の一部図版〉



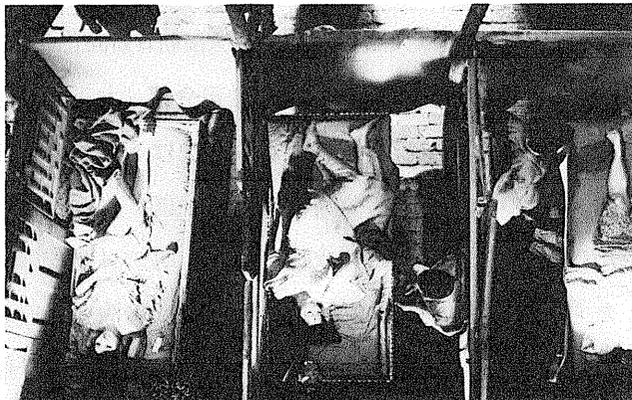
「戒厳令下の東京、萬世橋」大震災画集



「震災後夜警図、根岸方面」大震災画集



甘粕大尉が大杉栄惨殺



千田夏光原作・東映「従軍慰安婦」慰安所再現



「慰安婦」を記した手記二冊の題名 戒厳令(路谷虹兒画)

本会に参加して思うこと
安倍政権に憂いを感じる

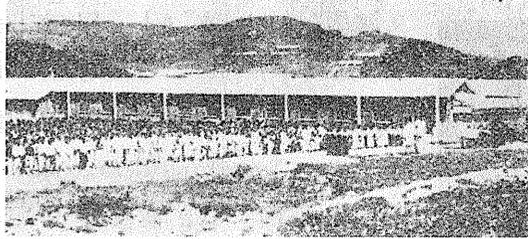
本会理事 超吉夫

中国は、江沢民政権の時以来、国民の欲求不満をかわすことを目的として、日本パッシングを開始した。今や、やりすぎてその反動がでてきているが……。安倍総理の政策を見ると、江沢民政権と同じような手法をとっているような気がしてならない。例えば、ヘイトスピーチを「言論の自由のある国」と黙認しているのは、全く紳士の国の総理と言えるでしょうか。さすがに、世界からパッシングを受けてようやく動き始めている様子は窺えるが。

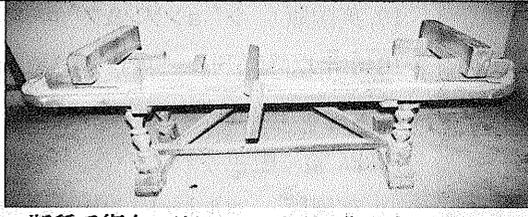
竹島問題も、冷静に分析すれば、日本領土であることを示す確実な根拠がない上、真逆に韓国領であることを示す証拠、文献が明白にある事実を歪曲して、領土を略奪されたと主張し、国民を間違った方向に誘導している。戦後70年、戦争をしない国、今や紳士の国、日本を断じて壊させてはならない!!と思います。



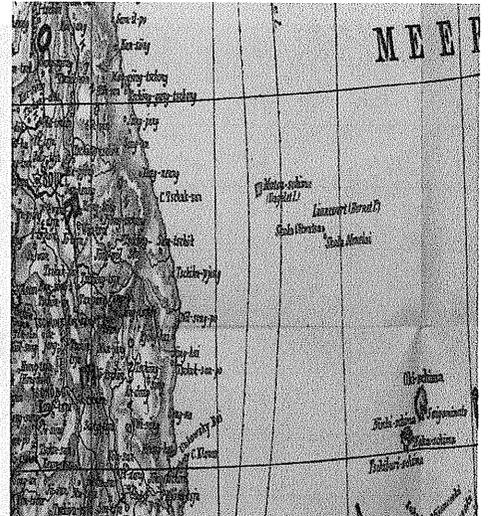
沖縄戦での慰安婦慰霊碑



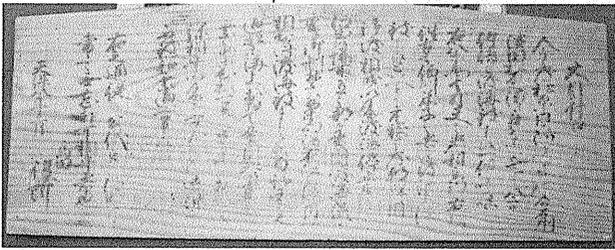
小鹿島療養者の皇居遥拝
(朝鮮総督府教科書「中等教育修身書」)



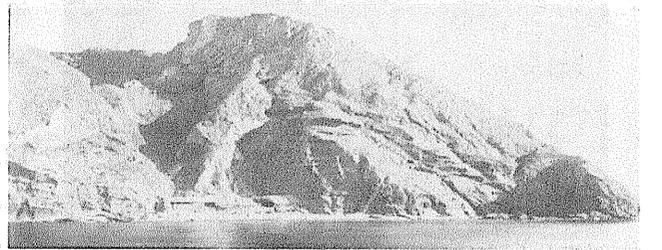
断種手術台。結婚では、断種手術が強いられた。



1894年、韓国顧問、独人ヘッセ所有の韓国地図



江戸幕府が竹島・松島を異国渡海として禁じた高札(1837年)



竹島の東島の写真。1904年11月20日、軍艦対馬撮影

<地図で読み解く竹島の領有権>

竹島コーナーで展示した初公開の原史料 1

A. 前近代(江戸期頃)の地図史料

1. 「海左全図」19世紀前半の朝鮮国図。鬱陵島の東南に小さく于山島が描かれる。世宗王二十二(1440)年より、鬱陵島の居民を本土へ移し、空島政策を実施したことも記されている。
2. 長久保赤水「新刻 日本輿地路程全図」「改正 日本輿地路程全図」東都書林須原茂兵衛ほか・浪華書林。1775(安永四)年三月の元版を初め、寛政・文化・天保・弘化・嘉永の正規図版・亜流図版を並べ改正箇所を対比する。
3. 林子平「三国通覧図説」「付図五舖之内日本輿地路程全図他」東都書林須原市兵衛 1785(天明五)年発刊。
4. 工藤東平「大日本沿海要疆全図」1854(嘉永七)年六月発刊。六十年間に及ぶ調査を経て、鶏林(朝鮮)・琉球・蝦夷を明らかにしたとされる地図である。竹島・松島とは別に鬱陵島が記載されている。
5. 高橋景保「重訂萬国全図」1855(安政2)年7月、高橋景保は、幕府の書物奉行・天文方筆頭であり、当時最高の世界全図である。日本で初めて、アルゴナウト島即竹島、ダグレット島即松島を記載する。
6. 勝海舟「大日本国沿海略図」1867(慶応三)年発刊。この地図は、鬱陵島が「松島」、リュンコラルトロックが記載された最初の日本版地図であろう。
7. 長久保赤水原図・鈴木驥園増訂「増訂 大日本国郡輿地路程全図」西京書林・大阪書林・東京書林 1852(嘉永五)年原刻、1871(明治四)年再版。
8. 仏国版 ロベール「L'EMPIRE DU JAPON」1750年発刊。Fanling-tao、Tchiang-chan-tao と鬱陵島・于山島が図示される。



「海左全圖」19世紀前半、鬱陵島は、無住地とされたことが、新島発見と日本人には誤解された。

9. 独国版 シーボルト「日本国地図」「朝鮮半島の地図」1840年発刊。「日本国地図」には、KORAI CANALの北東、隠岐島の西北に、竹島(独島)を Matsusima (L. Dagelet)、鬱陵島を Takashima (L. Argonaute) と記載している。「朝鮮半島の地図」は、鬱陵島・于山島が、UrIIIjongto・Tsjonsankuk と記載されている。復刻版。

10. 英国版 ジョンソン&ブローイング「JOHNSON'S JAPAN」1840年以降発刊。竹島(独島)を Matsusima (L. Dagelet)、鬱陵島を Takashima (L. Argonaute) と記載している。両島は、COREA 領に配色されている。

11. 英国版 コルネット「JAPAN & COREA」1790年以降(1851年発刊?)。竹島(独島)を Dagelet (ダゲレット)島と名付けている。二つの島は、COREA 領として着色されている。

12. 米国版 M.C. ペリー「日本遠征記収録海図」1856年刊のモーレ and ベント「CHINA and of the JAPAN islands」1855年刊。竹島(独島)を Hornet (1855) とし、鬱陵島を Dagelet or Matsusima とする。Argonaut (アルゴノート)島には、「実在しない」と記されている。復刻版。

13. 英国版 ジョンストン「CHINA and JAPAN」1860年以降発刊。竹島(独島)は、「Dagelet or Matsusima」と記載され、COREA 領として彩色されている。Argonaut 島は、測量間違いとして描かれている。

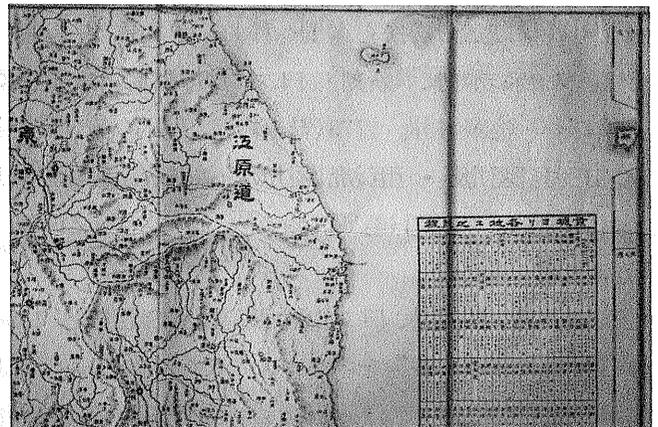
B. 近代(1905年2月、編入前)の地図史料

1. 英国版 AUGUST PETERMANN

「CHINA, KOREA, JAPAN」1872年発刊。測量ミスで Argonaut (アルゴノート)島=竹島が消され、鬱陵島を Dagelet (ダゲレット)島=松島と記した。今日の竹島(独島)には、リアンクール・ロックと、ホーネット島と二つの名前が付けられている。

2. 大日本帝国内務省地理局地誌課「大日本国全図」1880(明治13)年11月版權届、同14年2月出版、同十六年十月補正。内務省は、日本国領土を管轄する機関であり、政府公式の地図だが竹島は記載もない。

3. 清水光憲編纂「朝鮮輿地図」鹿田静七 1892(明治二十五年)三月七日発行。金玉均が所持した地図を原本に、朴泳孝が題箋したものである。大韓帝国閣僚が、竹島鬱陵島と松島を韓国領と認識していたことが分かる。



清水光憲編纂「朝鮮輿地図」鹿田静七 1892(明治二十五年)三月七日発行。金玉均が所持した地図を、朴泳孝が題箋したものである。大韓帝国閣僚が、竹島鬱陵島と松島を韓国領と認識していたことが分かる。

4. 嵯峨野彦太郎「亜細亜内部大日本韓清地図」1894(明治二十七年)年10月15日発行。日清戦争最中の地図である。朝鮮の竹島・松島に「大日本管轄」と傍書している。また、遼東半島の海洋島には、「明治二十七年九月十七日、日本国ノ為勝戦領ス」と傍書されている。日本軍が戦略上、占領管轄したことを表す。

5. 独国版 HESSE WARTEGG「KOREA」DRESDEN 1895年発行。その附地図。地図は、韓国を中核に、東西に日本・中国(清)の一部が描かれる。鬱陵島とリアンクールロック(ホーネット)が、韓国領に着色されている。

6. 文部省検定済「修正小学日本地図」東京金港堂書籍株式会社 1895(明治二十八年)年十一月二十九日発行、1901(明治三十四)年七月十八日修正四版発行。国民に自国の領土を正しく教育する目的で作成された「文部省検定済」教科書である。朝鮮国領土として松島=鬱陵島が無色で記載されている。独島=竹島は記載もない。

C. 近代(1905年2月、編入後)の地図史料

1. 「日露戦争実記臨時増刊韓国写真帳」博文館 1905(明治38)年6月20日発行。冒頭の「韓国全図」には、鬱陵島(松島)、竹島(リヤンクール岩)が韓国領として記載されている。

2. 中村謙三「大日本交通明細地図」大阪毎日新聞社 1908(明治41)年9月25日発行。北は千島列島全体、樺太南部、南は台湾島を領土とする。韓国「併合」(1910年)前に、新領地として、竹島=独島が、島根県隠岐島の付属の「竹島」として記載された。

3. 東洋拓殖会社「朝鮮在留内地人及東洋拓殖株式会社所有地分布図」1910(明治43)年12月末日現在。1910年、韓国「併合」により、数多くの日本人・企業が進出した事が分かる資料である。竹島は朝鮮から分離されている。また、鬱陵島から竹島へ向かう航路も消され、島根県(伯耆)との航路だけが記される。

4. 浅田多門「奈良県用 改定小学日本歴史附図 高等一二年用」大和書籍商協会 1912(明治45)年3月5日発行の教科書である。「明治三十七・八年戦役 日本海海戦」の説明図。

5. 東京朝日新聞「新日本鳥瞰図」大正9(1920)年11月3日発行。韓国「併合」後の竹島が入った鳥瞰図は、これが唯一である。

竹島コーナーで展示した初公開の原史料 2

1. 前近代、竹島=独島を朝鮮領とした史料

①史料改竄をした日本外務省!長久保赤水「日本輿地路程全図」の真相

元禄竹島一件にて、朝鮮漁民と競合した竹島・松島を朝鮮領土と認め、渡海禁止とした。御三家水戸藩学者の赤水が、試作した幻の安永四年元版は竹島・松島・朝鮮釜山も、経緯度内で色付けされ、日本領と誤解される。赤水も、鳥取藩も、幕府も竹島を朝鮮国鬱陵島ではなく新発見の島と思い込み、渡海免許されていたのである。その上で、赤水は、幕府決定の元禄鳥取藩竹島一件を受けて、「新発見」の竹島・松島を渡海禁止の朝鮮国領として、経緯度外・色付け無しとして、安永八年以来改正版を次々と刊行した。さらに、天保浜田藩竹島一件の後では、幕府決定を反映し、弘化年正規第五版では、竹島・独島は日本領外として削除されている。日本領でない、日本地図から除外された竹島(鬱陵島)・松島(今日の竹島=独島)。日本外務省は、長久保赤水「日本輿地路程全図」の元版・正規版を隠蔽し、松島が経緯度内にある弘化年の亜流偽版をトップに図示して、日本領と誤魔化そうとしている。日本外務省が提示した弘化年亜流偽版の地図も提示しよう。

②天保浜田藩竹島一件の異国渡海全国禁止令で朝鮮領を再確認

日本外務省・島根県竹島問題研究会は、元禄鳥取藩竹島一件だけをクローズアップして天保浜田藩竹島一件を隠蔽している。当時は、朝鮮領と歴然の鬱陵島が空島政策のため、鬱陵島=竹島とは認識できず、

新島と思って竹島渡海免許した。その場合も朝鮮領と断定して、鳥取藩主だけに命じた一国渡海禁止令であった。ところが、浜田藩竹島一件は桁違いの大事件であった。浜田藩は、会津(今津)屋八右衛門を交易に使って、「竹島」の名が知れ渡っているので「松島渡海」の名目としたが、松島・竹島いずれも異国(朝鮮領)渡海・密貿易の罪で処罰された。この事件で、浜田藩主松平周防守康任は、大阪城代、京都所司代・老中首座まで務めながら、ライバルの水野忠邦に追い落とされた。懲罰として蟄居を命じられ、家督を継いだ康爵も陸奥棚倉へ転封された。かくて、松島・竹島に近づくことも禁じた異国渡海全国禁止令が全国津々浦へ高札で掲げられた。浜田藩の赤字埋め合わせに交易で稼ぎながらも処罰された藩御用商人の八右衛門。一方、浜田藩に直接融資した長州萩の豪商西村家・熊谷家父子は、西回り航路での稼ぎとして、御咎めなしであり、後に、長州藩へ、奇兵隊組織や軍艦・銃砲など討幕軍資金を御用立てた。福島棚倉に処替えとされた松平家へ融資した証文を展示した。

2. 竹島=独島の領有権を示す欧米・日韓の近代地図

①竹島を鬱陵島とは別の新島とした日本の誤り

江戸幕府は、竹島が朝鮮国の歴史的固有の領土である鬱陵島とは別の新島ととらえていた。朝鮮王朝が居住を許さぬ空島施策を執っていたことも誤解を招いた。地元の鳥取藩・浜田藩も幕府老中の面々も、著名な地理学者であった長久保赤水、林子平「三国通覧図説」、高柴英三雄、工藤東平、鈴木驥園たちもである。欧米へ日本を紹介し、地図も持ち込んだシーボルトも、竹島を鬱陵島とは別の島として紹介してしまった。彼らの地図に、鬱陵島が竹島と別に図示されていることから明らかである。

②シーボルトとアルゴノート竹島(測量ミス)から生じた混乱

シーボルトは、日本の歴史文化を欧米に伝えた功労者である。まだ、リャンクールロック(今日の独島=竹島)については正しく測量されて無かった時点の、当時の欧米測定地図に日本側の知識を当てはめて伝えた。1840年、即ち、アルゴノート(1789年測定)を竹島に、ダジュウレー(1787年測定)を松島とした。このダジュウレー松島を、今日の竹島=独島に当てはめてしまった。その欧米地図の知識を知り得た、江戸幕府天文方(暦方)高橋景保は、文化七(1810)年、安政二(1855)年に、「万国全図」に記録した。重視すべきは、19世紀の欧米、日朝の地図の殆どが、アルゴノート竹島とダジュウレー松島をともに朝鮮国領として表記したことである。

1849年、フランス捕鯨船リャンクール号により測定認知され、リャンクールロックとして国際登記され、日本名松島も、朝鮮名于山島も、現地ではリャンコ島などと呼称された。かくて、アルゴノート竹島も、ダジュウレー松島も同一の鬱陵島であった。当然、アルゴノート竹島が測定間違いとして消去され、ダジュウレー松島が鬱陵島として記録されていくこととなった。既に、ペリー「日本遠征記付図」や勝海舟「日本沿海略図」には、アルゴノート竹島が、疑問の島として点線で囲んで図示し、リャンクールロックを正しく明示した。しかし、これらの正しい知識を把握できたのは、当時の日本では、政府関係筋トップの老中の一部・対馬藩だけであった。居住無き鬱陵島の権益を求めていた対馬藩は、真実を述べなかつたであろう。

編集後記 本年は、久保井規夫「竹島=独島問題の解決」つげ書房新社の発刊がニュースのメインになりました。日本側から最新の資料で出された稀有な書籍ですので、ぜひ一読されたいし、御紹介も戴きたい。本会から購入の場合は、印税8%(200円)引きで2,500円ですので、ご購入と情宣を御願います。さて、本年度の本会忘年会を12/12(金)18時より、八尾市志紀駅前の「美よ志」で行います。役員・理事の皆様は確実にご参加を願います。また、会員の皆様も随意御参加下さい。此の日だけの、楽しい情報交換が予定されています。参加費は五千円です。事前に、参加の有無を、御連絡いただければ幸いです。